

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
(分担)研究報告書

保健所における HIV 検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究

研究分担者：土屋菜歩（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門）

研究協力者：佐野貴子（神奈川県衛生研究所微生物部）、今井光信（田園調布学園大学）、須藤弘二、加藤真吾（株式会社ハナ・メディカル）、貞升健志（東京都健康安全研究センター微生物部）、川畑拓也（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所 微生物部ウイルス課）、大木幸子（杏林大学保健学部）、生島嗣（特定非営利活動法人ふれいす東京）、根岸潤（東京都福祉保健局）、城所敏英（東京都南新宿検査・相談室）、カエベタ亜矢（新宿区保健所）、関なおみ（池袋保健所）、堅多敦子、今村頭史（がん・感染症センター 都立駒込病院）

研究要旨

本研究は、保健所・検査所における HIV 検査の現状と課題を把握し、解決策を検討することを目的としている。今年度は、1. 全国の保健所等を対象とした HIV および梅毒検査相談に関するアンケート調査、2. 各地の HIV 検査・相談担当者向け研修会への参加と情報収集を行った。

アンケート調査は郵送で 2020 年 1 月に実施し、2019 年 1 月～12 月までの情報を得た。各施設の協力により、保健所 557 施設中 488 施設（回収率 88%）、特設検査相談施設（特設）18 施設中 15 施設（回収率 83%）から回答を得た。HIV 検査相談を実施した保健所 488 施設で 2019 年の 1 年間に行った HIV 検査の総数は 96,824 件、陽性は 220 件（0.23%）であった。陽性者のあった保健所は 106 施設（22%）であった。一方、回答のあった特設 15 施設で 2019 年に行った HIV 検査の総数は 28,863 件で、陽性者のあった特設は 11 施設（73.3%）、陽性は 123 件（0.4%）であった。保健所では陰性者で 2.1%（2017/96,562）、陽性者で 9.5%（21/220）、特設では陰性者で 1.7%（491/28,740）、陽性者で 7.3%（9/123）の受検者が検査結果を受け取っていなかった。やむを得ず検査・相談を断らざるを得なかった経験は保健所の 42%、特設の 66.7%が有しており、理由としては「定員数の超過」が最も多かった。ブロック別の集計では、HIV 検査件数は関東甲信越、近畿、東海の順に多く、陽性率は九州（0.29%）、近畿（0.25%）、東海（0.25%）の順であった。保健所の 93.2%、特設の 64.3%で梅毒検査を実施していた。保健所、特設での梅毒検査での陽性率はそれぞれ 2.1%、3.1%であった。検査・相談の現場で工夫していることとして、インターネットでの予約受付、プライバシーの保護などがあげられた。課題として、これまでに多かったリソース不足や外国人対応に加え、郵送検査の導入へのニーズや若年者への対応、未告知者の問題、陽性がすでに分かっている受検者への対応等が挙げられた。

HIV 検査・相談担当者向けの研修では、過去の保健所検査アンケートの結果や改訂版の即日検査ガイドラインの内容について情報共有を行うとともに、現場の課題や工夫について聞き取りや意見交換を行った。地域により抱える課題は異なっているが、他施設との情報共有、コミュニティとの連携等を通して、限られたリソースを活用した解決策を立案できる可能性が示唆された。

A.研究目的

我が国の新規発生報告件数は横ばいが続いており、新規発生報告に占める AIDS 患者の割合は依然として 30%前後で推移している。保健所

等検査施設における HIV 抗体検査の陽性件数はエイズ動向委員会の報告数の約 45%に相当しており、HIV 陽性者同定に重要な役割を担っている。また、ここ数年増加が続いている梅毒を含

む性感染症の同時検査は、HIV と併せたスクリーニング、予防啓発の機会となり得る。地域の特性やニーズに合わせた保健所検査・相談体制の構築が必要である。

そこで、本年は以下を研究目的とした。

1. 全国の保健所等を対象に HIV および梅毒検査相談の実施状況と課題を明らかにする
2. 各地の HIV 検査・相談担当者向け研修会への参加と情報収集を行う。

B.研究方法

1. 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

全国の保健所およびその支所等 557 箇所の HIV 検査相談施設と東京都南新宿検査相談室等 18 箇所の特設 HIV 検査相談施設を対象に、2020 年 1 月 6 日に HIV 検査相談および梅毒検査に関するアンケート調査票を送付し、2020 年 1 月 21 日を締切日として返送用封筒により回収し、解析を行った。検査・相談の実施体制を中心に、陽性率、課題および自施設で工夫している点等についての質問内容とした。質問項目は、過去に実施された保健所・検査所対象のアンケート調査の質問の内容を参考にし、過去の調査結果や報告書から収集した情報に基づき、今後の対策に必要と考えられる新規の質問項目も加えて実施した。ブロック別の検査数および陽性率についての集計・解析も行った。

2. HIV 検査・相談担当者向け研修会への参加と情報収集

自治体で実施された HIV 検査・相談担当者向け研修会（東京、福岡、那覇）、国立保健医療科学院で実施された全国の自治体から担当者が集まる研修会にオブザーバーまたは講師として参加した。研修の過程または参加者との直接の意見交換から、担当者が抱えている課題や考え得る解決策について情報収集を行った。

C.研究結果

1. 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 557 施設中 488 施設から回答を得た（回収率 88%）。特設検査相談機関（以下特設）については、対象とした 18 施設中 15 施設（83%）から回答を得た。

1) 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」調査

①HIV 相談・検査の実施率と実施体制

回答のあった保健所等 488 施設すべてで HIV 相談・検査を実施していた。HIV 検査の実施体制については、通常検査のみが 133 施設（27.3%）、即日検査のみが 237 施設（48.6%）、通常検査と迅速検査どちらも実施が 118 施設（24.2%）であった。平日夜間、土日に検査を行っている施設はそれぞれ 147 施設（30.1%）、27 施設（5.5%）であった。特設においては、15 施設中 10 施設（66.7%）が即日検査のみ実施していた。

即日検査は保健所、特設とも予約制で実施している施設がほとんどであり、通常検査でも半数以上の施設が予約制で実施していた。保健所、特設とも、スクリーニング検査が陽性だった場合、確認検査は他施設に依頼すると回答した施設が即日検査でも通常検査でも 75%を超えていた。確認検査用の血液検体は、再採血した検体を用いるという施設が迅速検査の残血を用いるという施設をやや上回っていた。

②HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 検査以外の性感染症検査を同時に行っていると回答した保健所等施設は、488 施設中 477 施設（97.7%）であった。同時に行っている検査で最も多かったのは梅毒検査（455 施設、95.4%）であり、B 型肝炎（326 施設、68.3%）、C 型肝炎（318 施設、66.7%）が次いで多かった。特設においては 15 施設中 10 施設

(66.7%)で他の性感染症検査を行っており、梅毒検査は10施設すべてで行っていた。次いで、B型肝炎の検査を行っている施設が3施設(30.0%)であった。

③HIV検査数と陽性件数

488保健所で2019年に行ったHIV検査の総数は96,824件で、陽性は220件(0.23%)であった。陽性者のあった保健所は106施設(22%)であった。一方、回答のあった特設15施設で2019年に行ったHIV検査の総数は28,863件で、陽性者のあった特設は11施設(73.3%)、陽性は123件(0.4%)であった。ブロック別の集計では、HIV検査数は保健所129施設と施設数の最も多い関東甲信越ブロックで33,028件と多く、陽性件数も68件と最多であった。保健所でのHIV検査陽性率をブロック別に比較すると九州0.29%(35/12,170)が最も高く、次いで東海0.25%(35/14,066)、近畿0.25%(34/21,532)の順であった

④年間検査件数別保健所数およびその陽性率

保健所においては、年間検査数が50件未満の施設が全体の36.9%(180施設)を占めた。そこでの陽性率は0.10%(4/3,878)と全体の陽性率0.23%に比べて低かった。年間検査数1,000件以上の施設で0.32%(92/29,122)と最も高かった。一方、特設21施設においては、陽性例は年間検査数500件以上の施設でのみ出しており、陽性率が高いのは年間検査数1,000件以上の施設で、0.44%(109/24,552)であった

⑤HIV検査結果の受け取り状況と誤通知

検査結果を受け取りに来なかった受験者数は、保健所での全検査数96,782件中2,038件(2.1%)であった。検査結果別に見ると、陰性の場合2.1%(2,017/96,562)、陽性の場合9.5%(21/220)が結果を受け取っていない。即日検査と通常検査を比較すると、陰性の場合、通常検査のみの保健所では結果を受け取りに来ない者の割合が高かった(即日検査のみ施設1.0%に対し3.5%)が、陽性の場合も同じ傾向

であった(通常検査のみ11.4%に対し他は8.9~9.5%)。

一方、特設においては、検査結果を受け取りに来なかった受験者数は、全検査数28,863件中500件(1.7%)であり、陰性の場合1.7%

(491/28,740)、陽性の場合7.3%(9/123)が結果を受け取っていない。即日検査と通常検査での比較では、保健所等施設と同じく結果を受け取りに来ない者の割合は陰性の場合通常検査のみの施設で高く、陽性の場合迅速検査のみの施設で高かった。迅速検査の施設においても、検査結果を受け取っていない陽性者がいることが明らかになった。HIV検査に関する誤通知は保健所、特設ともに1件もなかった。

⑥陽性者の発生届および医療機関受診把握について

陽性者のうち、その施設で発生届出を行った割合は、保健所で39.1%、特設で70.7%と特設で高かった。医療機関への紹介状を発行した陽性者の割合は、保健所で95.5%、特設で87.0%であった。陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがあると答えた保健所は62.7%(306/488施設)、特設は86.7%(13/15施設)であり、どちらも医療機関からの紹介状の返信、報告で情報を把握しているという回答が最も多かった。医療機関を受診したかどうか把握できている陽性者の割合は保健所で83.9%(220名中167名)、施設で78.9%(123名中90名)であった。

⑦HIV検査結果に関する証明書の発行

保健所において、証明書を発行している施設は35.9%(175/488)であり、そのうち56%(98/175)が有料で証明書を発行していた。発行にかかる料金は1,000円~2,000円が最も多かった(33%)。記名のある証明書を発行している施設は76%(133/175)であった。特設では、証明書を発行している施設は1か所のみで、無料で発行されていた。

⑧検査以外の感染予防に関する相談

検査以外に感染予防に関する相談を実施していると回答した施設は、保健所で94.5%、特設で93.3%であった。相談のタイミングは検査前後の両方と答えた施設が最も多く、次いで保健所では検査前に相談を行う施設が多く、特設では検査後に相談を行う施設が多い傾向であった。対応しているスタッフは保健所では保健師、特設では医師が多かった。

⑨受検者について把握している内容

保健所において、性別については98%、受検動機、感染機会の時期については85%以上の施設で把握されていた。受検経験や感染リスク、年齢について把握している施設はそれぞれ77.5%、70.3%、73.2%であった。68.4%の保健所で検査についての情報源を把握していた。居住地域や性的指向については約半数の保健所で把握されていた。特設においては性別、感染機会の時期は93.3%で把握されており、受検経験、性的指向、感染リスクは85%以上で把握されていた。受検動機は80.0%、年齢、情報源は70%以上で把握されていた。受検者の情報を把握するための質問票は保健所の91.6%、特設ではすべての施設で利用されていた。

⑩結果説明について

保健所において、スクリーニング検査陽性の場合73.4%、確認検査陽性の場合97.5%で医師が検査結果説明担当者となっていた。陰性の場合には保健師が結果説明を行うという回答が多かった。特設においては、陰性例でも80%以上で医師が検査結果説明担当者となっていた。

スクリーニング検査で陰性時に検査結果の説明は口頭のみで行うと回答した保健所は488施設中254施設(52.0%)、特設では15施設中5施設(33.3%)であった。陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣の経験ありと回答した保健所等施設は488施設中86件(17.6%)、経験はないが可能と回答したのは158件

(32.4%)であった。特設においては、15施設中6件(40.0%)で派遣経験あり、3件

(20.0%)で経験はないが派遣可能と言う回答であった。

⑪血液曝露事故が受検動機の受検者について

血液曝露事故が受検動機の受検者がいたと回答した施設は、保健所等で170件(34.8%)、特設検査相談施設で5件(33.3%)であった。その内訳は、保健所、特設検査相談施設ともに医療職が最も多く、保健所では福祉職、清掃業、消防・救急救命士の受検者も見られた。保健所では血液曝露事故が受検動機であった者の20%が職業不明であった。

⑫中学生、高校生の検査希望者への対応について

保健所では64.1%、特設では80%の施設が中学生、高校生の検査希望者に通常通りの対応を行うと回答した。保護者同伴の条件付きで受け入れる、陽性時のみ保護者同伴で説明・相談説明のみ保護者同伴、など施設によって受入れや対応が異なっていることが明らかになった。

⑬日本語のわからない外国籍の人の受検

日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがあると回答した施設の割合は保健所等で38.1%(186/488)、特設40%(6/15)であった。

対応言語は英語が最も多く、保健所では中国語、韓国語、ポルトガル語と続くのに対し、特設検査相談施設ではポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、タガログ語が同数で続いていた。対応方法としては保健所では外国語問診票・説明書によるものが最も多く、次いで「通訳システム、アプリ」が多く使用されていた(28%、52/186)。特設では外国語問診票・説明書と、外国語対応ができる人の利用を答えた施設が3施設ずつ(50%)であった。

⑭やむを得ず検査・相談の受入れを断った経験

2019年1-12月の間に、やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験の有無および断った理由を尋ねた。保健所では42.4%(207/488)が「ある」と回答し、理由として「定員数の超

過」が80%を超え、「日時の調整ができない」が12% (25/207) で続いていた。「繰り返し受験のため」を理由として挙げた保健所が10施設 (4.8%) があった。施設では、66.7% (10/15) が「ある」と回答し、理由として最も多かったのは「定員数を超過した」(60%)、次いで「受付時間に間に合わなかった」であった。保健所、施設のどちらにおいても、「すでに HIV 陽性で治療中だった」ことを理由に受け入れを断っていた例があった (保健所3件、施設1件)。

⑮検査・相談に関わる担当者の研修や再教育の機会の有無

「検査・相談に関わる担当者の研修や再教育の機会がある」と回答した施設の割合は、保健所等で96.9% (473/488)、特設で73.3%

(11/15) であった。保健所の検査・相談担当者の研修・再教育の機会として最も多かったものは、自治体主催の研修で66.4% (314/473)、次いでエイズ予防財団の研修45.7% (216/473) であった。特設でも同様の傾向であったが、自施設内での研修と回答した施設が5件あった。

⑯ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の利用について

保健所でホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあると回答した施設の割合は94.9% (463/488) であり、77% が役立つと回答した。特設においては、すべての施設がホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあり、かつ役立つと回答していた。

⑰課題

自由記載で HIV 検査相談の課題について尋ねた。複数の施設から挙げた課題として、受検者数 (特に若年層) の減少、予算や人員の不足による体制維持の難しさ (十分な時間がとれない、検査のみでカウンセリングや相談ができない、スペースの問題でプライバシーの確保が難しい)、MSM 等ハイリスク層への周知方法、リピーター受検者への対応、日本語を話せない外国籍者への対応、結果を受け取りに来ない受検

者への対応があった。陽性例経験の少ない保健所からは、陽性例への対応経験が少ないことに対する不安も挙げられた。ウェブサイト予約を導入した施設からは、無断キャンセルの問題も挙げられた。

⑱工夫していること

以下のような回答が挙げられた。

- ・ HIV に関する参考資料をファイルにまとめて、受検者と一緒に見ながら説明する
- ・ プライバシー保護のため、動線や個別スペースの確保に工夫している
- ・ インターネット予約による利便性の向上

2) 「保健所・検査所における HIV 梅毒検査・体制に関するアンケート」調査

①梅毒検査実施率

アンケートを回収できた保健所488施設のうち455施設 (93.2%) が梅毒検査を実施していると回答した。特設においては、回収できた14施設中9施設 (64.3%) が梅毒検査を実施していた。

②梅毒検査の実施形態

HIV 検査と一緒にの場合のみ梅毒検査が受けられる施設と、梅毒検査のみ受けられる施設が混在していた。保健所においては、301施設

(66.2%) が梅毒検査単独でも受けられると回答した。特設では梅毒検査を実施している施設すべてにおいて梅毒検査は無料だったが、保健所等においては無料の施設の割合が91.9%

(455/488) であり、有料の場合に受検者が負担する金額は500~1000円が47.1%、1000~2000円が31.4%と施設により異なっていた。

保健所等では通常検査のみでの梅毒検査が61.8% (281施設) であった。HIV 通常検査の場で梅毒検査を実施した場合の梅毒検査結果の返却時期は1週間後が最も多く (65.3%)、HIV 即日検査の場で梅毒検査を実施した場合には6日以内の結果返却が最も多かった (66.7%)。特設では通常検査での実施が33.3%、即日検査での実施、結果返却が55.6%であり、結果返却は

通常検査の場で梅毒検査をした場合で75%が1週間であった。

③梅毒検査の方法

梅毒検査を即日検査で実施している保健所では、STS法とTP抗体検査を同時に実施している施設が最も多く(85/174施設、48.9%)、次いでTP抗体検査のみ実施が45施設(25.9%)であった。STS法のみ実施、STS法で陽性だった場合TP抗体検査を追加実施、という保健所もあった。結果の返却は、6日以内と回答した施設が116施設(66.7%)であった。通常検査を実施している保健所では、STS法とTP抗体検査を同時に実施している施設の割合が80.3%

(261/325)であった。特設では、梅毒検査を通常検査で実施している施設でもTP抗体陽性だった場合にSTS法を追加、またはSTS法とTP抗体法の両方を追加で実施すると回答した施設が半数見られた。

保健所、特設とも、使用している検査試薬はSTS法ではRPRカードテストが83.9%と大半を占め、TP抗体法では通常検査で実施している施設はTPHA法、即日検査で実施している施設はTPIC法を採用している施設が最多であった。

④梅毒検査陽性者数

2019年1月～12月の梅毒検査陽性者数、陽性者数を尋ねた(HIV検査結果による層別化した回答は今回依頼せず)。梅毒検査を実施している保健所455施設において、全体の梅毒検査数79,147件のうち、梅毒陽性は1,637件(2.1%)であった。陽性例を検査方法別に見ると、STS法での陽性は876件(1.4%)、TP抗体法での陽性は1,953件(2.8%)であった。

特設においては、全体の梅毒検査数23,728件のうち、梅毒陽性は732件(3.1%)であった。陽性例を検査方法別に見ると、STS法での陽性は133件(2.2%)、TP抗体法での陽性は813件(3.5%)であった。

⑤陽性者への対応

梅毒陽性となった受検者への対応としては、保健所等施設、特設検査相談施設どちらも受診勧奨が90%と最も多く、次にパートナーの受診勧奨、紹介状の発行が多かった。梅毒検査結果の証明書の発行をしていると回答した施設は、保健所で26.6%(121/455)であり、うち約53%が有料であった。証明書発行にかかる料金は、500円～2000円未満が最も多かった。証明書は記名式であると答えた施設が66.1%を占めた。特設においては、梅毒検査結果の証明書を発行している施設は22.2%(2/9)であり、2施設とも無料であった。

⑥課題

自由記載で梅毒検査の課題を尋ねた。課題として、結果を聞きに来ない受検者で追跡ができないこと、過去に既往がある受検者への説明の難しさ、若年層への周知の必要性、頻回受検者への対応、梅毒検査目的で受検するHIV陽性者への対応等が挙げられた。梅毒に関する相談対応のマニュアル、資料を希望した施設もあった

2. 2. HIV検査・相談担当者向け研修会への参加と情報収集

今年度は、以下の研修会に参加した。いずれの研修会でも現行のHIV即日検査ガイドライン(第4版)の内容を参加者に説明するとともに、参加者が担当地域で抱えている課題や解決のための取り組みについて詳細な情報収集を行った。

- ① 国立保健医療科学院 HIV検査・相談担当者向けエイズ対策研修(全国の自治体から担当者が参加)
近隣自治体担当者同士で課題の抽出と解決策を検討するグループワークを通して、情報・リソースの共有が有効である可能性が示唆された。
- ② 福岡県 HIV検査・相談担当者研修(外国人対応をテーマとした研修)
外国人留学生を相手に、やさしい日本語を用

いた検査説明のロールプレイを行った。ウィンドウピリオドの説明などに苦慮する場面が見られ、必要な情報をわかりやすい日本語で伝える訓練が日ごろから必要であることが明らかになった。

③ 沖縄県 HIV 検査・相談担当者研修 (MSM コミュニティと共同での研修)

コミュニティセンター担当者から主に MSM の検査・相談のポイントとなる点やニーズについて、これまでの蓄積データから説明があった。医療機関、行政、コミュニティをつなぐコーディネーターが新たな制度として導入されており、今後の活躍が期待される。

D.E. 考察とまとめ

今年度の全国の保健所（保健所およびその支所等）、特設検査相談施設を対象としたアンケート調査では、各施設の協力により、それぞれ 557 施設中 488 施設（回収率 87%）、18 施設中 15 施設（回収率 83%）から回答を得た。

保健所 488 施設で 2019 年の 1 年間に行った HIV 検査の総数は 96,824 件、陽性は 220 件（0.23%）であった。陽性者のあった保健所は 106 施設（22%）であった。一方、回答のあった 18 特設検査相談施設で 2019 年に行った HIV 検査の総数は 28,863 件で、陽性者のあった特設は 11 施設（73.3%）、陽性は 123 件（0.4%）であった。検査数は回収率を考慮に入れても昨年に比し増加傾向にあると言える。陽性率は前年と比しわずかに低下しているようにも見える。梅毒検査導入施設の増加により、HIV 感染症以外の性感染症検査を目的とした HIV 陰性者の受検者数が増加した可能性も考えられる。回答では、HIV 感染がすでに分かっている人が HIV 感染症以外の性感染症検査目的で受検するケースも挙げられている。相談や説明の内容に関して、受検者のニーズに合わせた対応が求められるようになるであろう。

ブロック別の集計では昨年に引き続き九州ブロックの陽性率が高く、東海、近畿が続いていた。MSM を対象とした先行研究では、居住地以外で検査を受ける者が少なくないことが指摘されており、検査を受けた場所と居住地が必ずしも一致していない可能性がある。受検行動の詳細に関する検討や今後の変化についての評価が引き続き必要である。

保健所全体でみると、年間の検査件数 50 件未満の施設が多かった。検査数、陽性例の経験が少ない保健所については、研修会等でのロールプレイ、他施設やコミュニティとの情報共有が担当者の不安を軽減するのに役立つと考える

検査を受けたにも関わらず、即日検査ですら結果を受け取っていない受検者、陽性判明後の医療機関受診が把握できていない者がおり、その割合が上昇していることが懸念される。保健所、特設のどちらも、陽性者で結果を受け取っていない者の割合が高かった。この中には、すでに HIV 感染が分かっている治療中の受検者が含まれる可能性はあるものの、検査→診断→医療機関受診のカスケードから感染者が脱落しないような体制づくりが必要である。

受検者について把握する質問票を用いている施設は多かったが、把握している内容にはばらつきも見られた。性的指向を把握している施設は保健所で約半数であるのに対し、特設では 80%以上が受検者の性的指向を把握していた。受検者から得られる情報により、相談やカウンセリング、説明の内容も異なってくる可能性がある。限られた時間の中で受検者の特性、ニーズを把握することは容易ではないが、即日検査ガイドラインにも掲載されている質問票例などを参考に、ある程度の統一性をもって必要な情報が把握できることが望ましい。受検者の特性や行動に変化がみられるようであれば、質問項目の見直しも随時必要になるだろう。

以前から課題として挙げられることが多かった日本語を話さない外国人への対応について

は、通訳の他、翻訳アプリを使用する自治体も出てきていることが明らかになった。翻訳アプリも使い方に慣れる必要があり、平時から効果的な利用方法を担当者間で確認・検討しておくことで、実際使用する際のトラブル等を未然に防ぐことができると考える。また先行して同様の通訳アプリを導入した自治体からの情報共有も有効であろう。

過去のアンケートにはなかった新規の質問として追加した「やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験」については、保健所で約4割、特設で約6割の施設が「経験あり」と回答していた。断った理由については「定員を超過した」「日時の調整ができない」であった。今回の質問項目のみでは、受検希望者の人数が受け入れ施設のキャパシティを超過するほど増加したためなのか、受け入れ施設の体制（検査の日時の設定など）と受検者のニーズが合わなかったためなのかを判断することは難しい。検査・相談のタイミングを逸してしまうことのないよう、1か所の施設で受け入れが難しくとも、近隣で条件が合う施設のマッチングや紹介などができる横の連携も検討する余地があると考え「繰り返しの受検」で検査・相談を断ってしまうことは、定期的に検査が必要なハイリスク層の検査機会を奪ってしまうこととなり望ましくない。現行の即日検査ガイドラインにも「リピーター」と呼ばれる受検者への対応として記載されているが、研修会や学会等での周知をより広く行っていきたい。

課題として挙げられている内容は、アンケートでも研修会でも同様であったが、研修会では検査・相談の担当者が感じている問題点をより詳細に把握することができた。地域や施設により抱えている課題が異なる場合も多く、地域性や施設の規模に合わせた検査体制モデルを構築することが必要である。来年度は、今年度のアンケート調査で得られた施設で工夫している点などをまとめた事例集を作成予定である。

保健所等施設、特設検査相談施設での梅毒検査での陽性率はそれぞれ2.1%、3.1%と梅毒流行がまだ収束していないことを示している。ただし、梅毒検査の方法や使用している試薬は施設により異なっており、治癒例も含まれている可能性があるため、陽性率の評価、解釈には注意が必要である。

研修会での意見交換やアンケートの回答から、調査結果やお互いの施設の状況を現場スタッフが広く共有できる機会を研究班としてサポートしていくことの重要性も明らかになった。研修会の場合だけではなく、ウェブサイトやSNSなども活用した情報のアップデートや双方向のコミュニケーションも強化していきたい。コミュニティとの協同、自治体との連携が不可欠であることから、研究班内の横のつながり、自治体や他研究班との情報交換・共有は今後も効果的な対策の立案・実装に役立つと考える。

F.健康危険情報

該当なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

1) 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞杣健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史：保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 第33回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年11月熊本市（口演）

2) 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞杣健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史：保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制と実施状況および課題に関するアン

ケート調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、2019 年 11 月熊本市（口演）

3) 土屋菜歩、日高庸晴、大北全俊、渡會睦子、今村顕史: 日本の就労成人男性における HIV/エイズおよび性感染症関連意識と行動に関するアンケート調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、2019 年 11 月熊本市（口演）

G.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

謝辞

アンケート調査にご協力いただいた全国の保健所等関係者の皆様方、研修会への参加の皆様
に深く感謝申し上げます。

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？ (n=488)

はい	488件	100.0%
いいえ	0件	0.0%

アンケート送付数 557
回収数 488
回収率 87.6%

2. HIV検査実績について

2019年1～12月の実施状況をお教え下さい。 (n=488)

① HIV検査件数

検査数	96,824
うち陽性数	220
陽性率	0.23%

陽性経験数

陽性者があった保健所	106件	21.7%
陽性者がなかった保健所	381件	78.1%
未記入	1件	0.2%

年間検査件数別保健所数

年間検査数	保健所数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
全体	488		96824		220	0.23%	21.7%	106
50件未満	180	36.9%	3,878	4.0%	4	0.10%	2.2%	4
50-99件	90	18.4%	6,502	6.7%	9	0.14%	10.0%	9
100-199件	92	18.9%	12,894	13.3%	19	0.15%	16.3%	15
200-499件	78	16.0%	23,862	24.6%	50	0.21%	44.9%	35
500-999件	31	6.4%	20,566	21.2%	46	0.22%	83.9%	26
1000件以上	17	3.5%	29,122	30.1%	92	0.32%	100.0%	17

② HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人		陽性で聞きに来なかった人		検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
全体	2,017	2.1%	21	9.5%	96,782	220	96,562	2,038
即日検査のみ	361	1.0%	9	9.3%	37,801	97	37,704	370
即日検査+通常検査	892	2.4%	7	8.9%	37,071	79	36,992	899
通常検査のみ	764	3.5%	5	11.4%	21,910	44	21,866	769

③ 発生届出を行った陽性者数 **86人 (39.1%)**

④ 陽性者のうち、医療機関への紹介状を発行した数 **210人 (95.5%)**

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数: **167人 (83.9%)**

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

3. HIV検査・相談事業について

① HIV検査の際にHIV以外の性感染症検査を一緒に行っていますか？

行っている	477件	97.7%
→毎回	424件	88.9%
→毎回ではないが定期的	21件	4.4%
→一部は定期的	17件	3.6%
→希望者のみ	23件	4.8%
行っていない	11件	2.3%

(n=477)

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください。

(n=477) 複数回答

梅毒	455	95.4%
クラミジア抗原または抗体	253	53.0%
淋菌	51	10.7%
B型肝炎	326	68.3%
C型肝炎	318	66.7%
HTLV-1	18	3.8%

② HIV検査結果の連絡・受け渡しについて

2019年1月以降HIV/性感染症検査に関して誤った結果を通知したことはありましたか？

(n=488)

なかった	484	99.2%
あった	2	0.4%
⇒HIVについてあった	0	0.0%
⇒STIについてあった	2	0.4%

③ HIV検査陰性の証明書を発行していますか？

(n=488)

発行していない	307	62.9%
発行している	175	35.9%
（うち希望者のみ発行）	37	21.1%
（うち結果通知書発行）	3	1.7%
→料金は？		
無料	63	36.0%
有料	98	56.0%
金額→ 500円未満	13	13%
500～1,000円未満	29	30%
1,000円～2,000円未満	32	33%
2,000円以上	23	23%
記名式ですか？		
→はい	133	76.0%
→いいえ	32	18.3%

(n=175)

④ HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？（複数回答）

ない	175	35.9%
ある	306	62.7%
→紹介状の返信、 医療機関からの報告	244	79.7%
→受診医療機関に確認	16	5.2%
→同伴受診	19	6.2%
→本人の連絡先を把握	3	1.0%
→医療機関と受診調整を行う	22	7.2%
→検討中	3	1.0%

(n=488)

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

4. 受検者に関する情報収集・対応状況等について

① 受検者について把握している内容に○を付けて下さい

(n=488)

複数回答あり

性別	480	98.4%
年齢	357	73.2%
年代	230	47.1%
居住地域	243	49.8%
受検動機	428	87.7%
受検経験	378	77.5%
感染リスク	343	70.3%
性的指向	238	48.8%
感染機会の時期	418	85.7%
今回の検査の情報源	334	68.4%
その他	55	11.3%

② 受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？

(n=488)

用いていない	40	8.2%
用いている	447	91.6%
未回答	1	0.2%

③ 職務中の血液暴露事故が受検動機の受検者はいましたか？

(n=488)

わからない、把握していない	100	20.5%
いない	210	43.0%
いる	170	34.8%

→職種	人数	
医療職	205人	61%
福祉職	24人	7%
美容職	3人	1%
清掃業	9人	3%
消防士、救命士	10人	3%
その他	20人	6%
職業不明	66人	20%

④ 中学生・高校生の検査希望者への対応はどのようにしていますか？

(n=488)

通常通り行う	313	64.1%
受け付けない	3	0.6%
検査・告知とも保護者同伴で受付	33	6.8%
告知のみ保護者同伴で受付	23	4.7%
保護者の同意を得られているか	13	2.7%
保護者同伴	7	1.4%
陽性時(緊急時)は保護者に説明	43	8.8%
中学生は保護者同伴か受け付けない	17	3.5%
状況に応じて	15	3.1%
事例なし	9	1.8%
説明を十分に行う	6	1.2%
年齢を把握していない	6	1.2%
未定	16	3.3%

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

⑤ 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？

ない	292	59.8%	(n=488)
ある	186	38.1%	
未記入		0.0%	
◆言語			(n=186)
→英語	101	54.3%	
→中国語	40	21.5%	
→韓国語、朝鮮語	29	15.6%	
→ポルトガル語	30	16.1%	
→スペイン語	17	9.1%	
→ベトナム語	3	1.6%	
→タイ語	15	8.1%	
→タガログ語、フィリピン語	14	7.5%	
→ロシア語	5	2.7%	
◆方法			
問診票、説明書	70	37.6%	
パンフレット	40	21.5%	
通訳依頼	24	12.9%	
通訳システム、アプリ	52	28.0%	
外国語対応できる人	6	3.2%	
意思疎通をはかり何とか対応	5	2.7%	
日本語のわかる人同席	4	2.2%	
状況に応じて	2	1.1%	

5. HIV検査の実施状況について教えて下さい(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)。

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい (n=488)

1	通常検査のみ	133	27.3%
2	即日検査のみ	237	48.6%
3	通常+即日	118	24.2%
A	平日昼のみ検査	314	64.3%
B	平日夜間検査	147	30.1%
C	土日検査(祝日含む)	27	5.5%
1A	通常のみ+平日昼のみ	116	23.8%
1B	通常のみ+夜間も行っている	16	3.3%
1C	通常+土日検査も	1	0.2%
2A	即日のみ+平日昼のみ	149	30.5%
2B	即日のみ+夜間も行っている	76	15.6%
2C	即日+土日検査も	12	2.5%
3A	通常+即日・平日昼のみ	49	10.0%
3B	通常+即日・夜間も行っている	55	11.3%
3C	通常+即日・土日検査も	14	2.9%

通常検査を行っている保健所 251
即日検査を行っている保健所 355

488

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

A 通常検査の場合

251保健所

① 実施方法は？ (n=283) 複数回答

定期	276	97.5%
イベント	13	4.6%

② 曜日と時間は？ (n=283) 複数回答

曜日		
月	52	18.4%
火	92	32.5%
水	51	18.0%
木	48	17.0%
金	18	6.4%
土、日、祝日	2	0.7%
平日	9	3.2%
随時	5	1.8%
不定	1	0.4%
時間帯		
午前	163	57.6%
午後	101	35.7%
夜間	59	20.8%
月回数		
1回	71	25.1%
2回	89	31.4%
3~4回	93	32.9%
8回以上	8	2.8%
年回数		
1~2回	9	3.2%
4回以上	4	1.4%
③ 予約制ですか？		
はい	175	61.8%
いいえ	107	37.8%

④ 結果返しは？ (n=251)

6日以内	3	1.2%
1週間後	165	65.7%
1~2週間	20	8.0%
2週間以降	63	25.1%

⑤ スクリーニング検査 実施施設は？ (n=251)

自施設	56	22.3%
他施設	194	77.3%

⑥ 確認検査の方法は？ (n=251)

WB法のみ	74	15.2%
2次スクリーニング+WB法	31	6.4%
WB法+NAT法	95	19.5%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	46	9.4%
その他	2	0.4%

⑦ 確認検査の実施施設は？

自施設	44	17.5%
他施設	203	80.9%

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

B 即日検査の場合

355保健所

① 実施方法は？ (n=442) 複数回答

定期	387	87.6%
イベント	72	16.3%

② 曜日と時間は？ (n=442) 複数回答

曜日		
月	56	12.7%
火	130	29.4%
水	72	16.3%
木	67	15.2%
金	9	2.0%
土、日、祝日	26	5.9%
平日	19	4.3%
随時	13	2.9%
不定	6	1.4%
時間帯		0.0%
午前	220	49.8%
午後	189	42.8%
夜間	118	26.7%
月回数		0.0%
1回	105	23.8%
2回	119	26.9%
3~4回	105	23.8%
8回以上	9	2.0%
年回数		0.0%
1~2回	9	2.0%
4回以上	4	0.9%
③ 予約制ですか？		
はい	362	81.9%
いいえ	71	16.1%

④ 結果返しは？ (n=355)

6日以内	39	1.2%
1週間後	135	65.7%
1~2週間	165	8.0%
2週間以降	0	25.1%

⑤ スクリーニング検査の方法は？ (n=355) 複数回答

イムノクロマト法	49	13.8%
ダイナスクリーン	229	64.5%
エスプライン	65	18.3%
不明	1	0.3%

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

⑥ スクリーニング検査 実施施設は？ (n=355)

自施設	336	94.6%
他施設	19	5.4%

⑦ 確認検査の方法は？

WB法のみ	64	13.1%
2次スクリーニング+WB法	69	14.1%
WB法+NAT法	124	25.4%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	83	17.0%
その他	5	1.0%

⑧ 確認検査の実施施設は？

自施設	25	7.0%
他施設	322	90.7%

⑨ 確認検査用 検体は？ (n=355) 複数回答

迅速検査残血液	186	52.4%
確認検査用再採血	187	52.7%
迅速検査用と同時	63	17.7%
結果通知後	123	34.6%

6. 結果説明・相談体制について

複数回答 (n=488)

		スクリーニング検査陰性時		スクリーニング検査陽性時		確認検査陰性時		確認検査陽性時	
職種	医師	211	43.2%	358	73.4%	314	64.3%	476	97.5%
	保健師	318	65.2%	174	35.7%	240	49.2%	192	39.3%
	看護師	33	6.8%	8	1.6%	12	2.5%	5	1.0%
	検査技師	21	4.3%	10	2.0%	11	2.3%	8	1.6%
	その他(カウンセラー等)	31	6.4%	19	3.9%	23	4.7%	33	6.8%
説明資料	あり	397	81.4%	358	73.4%	365	74.8%	423	86.7%
	なし	84	17.2%	51	10.5%	77	15.8%	48	9.8%
配布資料	あり	396	81.1%	358	73.4%	360	73.8%	426	87.3%
	なし	83	17.0%	51	10.5%	80	16.4%	45	9.2%

④ 検査結果の説明方法について

複数回答 (n=488)

		スクリーニング検査陰性時		スクリーニング検査陽性時		確認検査陰性時		確認検査陽性時	
	口頭のみ	254	52.0%	209	42.8%	209	42.8%	164	33.6%
	結果の書面を渡す	232	47.5%	184	37.7%	219	44.9%	268	54.9%
	希望者には結果書を渡す	11	2.3%	4	0.8%	5	1.0%	4	0.8%
	基本は口頭、希望者には書面を渡す	1	0.2%	0	0.0%	3	0.6%	3	0.6%
	紹介状を渡す	0	0.0%	9	1.8%	1	0.2%	53	10.9%
	希望者には証明書を発行	2	0.4%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	資料(パンフレット)を渡す	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	言頭を一緒に確認しながら説明する	8	1.6%	8	1.6%	5		5	
	この時点での対応はない	0	0.0%	52	10.7%	6	1.2%	2	0.4%

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

⑥ 確認検査陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=488) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=106)	
経験あり	86	17.6%	32	30.2%
実績はないが可能	158	32.4%	17	16.0%
できない	181	37.1%	44	41.5%
検討中	14	2.9%	3	2.8%
その他	45	9.2%	10	9.4%
未回答	4	0.8%	0	0.0%

⑦ 確認検査で陽性の場合、貴保健所で発生届を提出していますか？ (n=488) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=106)	
行う	193	39.5%	44	41.5%
行わない	36	7.4%	10	9.4%
医療機関に依頼する	234	48.0%	51	48.1%
未回答	25	5.1%	1	0.9%

7. 検査・実施体制と担当者の研修機会について

① 検査以外に感染予防等に関する相談を実施していますか？ (n=488)

していない	27	5.5%
している	461	94.5%

対象者は？

(n=461)

→全員に	451	97.8%
→陽性者のみ	1	0.2%
→陰性者のみ	0	0.0%
→希望者に	7	1.5%

タイミングは？

複数回答あり

検査前に	57	12.4%
結果説明後に	44	9.5%
両方に	356	77.2%

具体的手法は？

複数回答あり

資料配布	248	53.8%
医師対応	154	33.4%
保健師対応	365	79.2%
カウンセラー対応	25	5.4%
その他職員対応	5	1.1%
NGOと連携	1	0.2%
随時電話相談	5	1.1%

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

③ 検査・相談に関わる担当者の研修や再教育の機会がありますか？ (n=488)

ある	473	96.9%
自施設内での研修	42	8.9%
自治体主催の研修	314	66.4%
国立保健医療科学院主催の研修	105	22.2%
エイズ予防財団主催の研修	216	45.7%
拠点病院主催の研修	31	6.6%
支援団体、大学、研究事業など	15	3.2%
ない	12	2.5%

(n=473)

8. 検査・相談の受け入れについて

やむを得ず検査・相談の受け入れを断ったことはありますか？ (n=488)

ある	207	42.4%
→定員数を超過したため	169	81.6%
→居住地が管外であるため	0	0.0%
→繰り返し受検のため	10	4.8%
→外国人対応が困難なため	5	2.4%
→日時の調整ができない	25	12.1%
→予約がなかった	3	1.4%
→ウインドウ期を過ぎていない	5	2.4%
→採血できない	4	1.9%
→すでに治療中(症状が出ていた)	3	1.4%
→他の緊急業務(災害等)対応のため	4	1.9%
→証明を目的としていた	2	1.0%
ない	281	57.6%

(n=207)

9. その他

①ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

ある	463	94.9%
ない	21	4.3%
未記入	4	0.8%

(n=488)

②「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

はい	376	77.0%
いいえ	2	0.4%
不明	105	21.5%
未記入	5	1.0%

(n=488)

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

③ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの保護(部屋の構造等により難しい面があるため)、いまのところスクリーンをして、受検者と担当保健師以外は部屋の前を通らないようにしている。 ・性的指向をHIV検査の前に把握するための説明方法、確認方法。
・外国人の啓発や検査場での対応。
・外国人の啓発や検査場での対応。
・外国人の啓発や検査場での対応。
・外国人の啓発や検査場での対応。
・外国人対応、パンフレット等を介して説明しているが、細やかな内容のやり取りが難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動をするも相談・検査の増加につながらない。 ・当保健所管内には専門医療機関がなく、近くても車で2~3時間かかるため、感染、発症時の継続受療が困難。
<ul style="list-style-type: none"> ・県下で夜間検査を実施しているのが当保健所のみであり、受検者が集中してしまうが、今のところマンパワー等の問題もあり回数等を増やせない。 ・庁舎の構造上の問題もあり、プライバシーの確保や冷暖房等の環境整備が難しい。 ・HIV即日検査+通常検査(梅、B、C肝)を受けた人で通常検査の結果を聞きに来ない人が多く、未告知率が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・若年層への性感染症予防の刑罰の場が少ない(中学、高校等での教育も困難。) ・MSM等高リスク者への検査普及の場が少ない(一般的なPRはしているが、どこまで届いているか分からない)
<ul style="list-style-type: none"> ・受検者のプライバシーを確保するために、パーティション等の仕切り、動線の確保について工夫しているが限界がある。 ・定例は平日の午前のみ。イベントでは年2回の時間外(夜間、休日)の検査がある。しかし、この2回のみでは働く人の受検の機会の提供として不十分な可能性がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・待合コーナーのプライバシーの確保に苦慮している。 ・MSMの方で定期的に検査に来る方への対応 ・MSM、LGBT関連資料の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語がわからない外国籍の人への対応。 ・知的障害者(施設が検査希望・本人・親の同意を確認できない場合)の対応
9②・検査を受けられる施設の検索機能が管内市町村名を入れて検索しても当所がヒットしないため、検査可能な施設を探すにはあまり有用ではないかもしれません。
HIV検査・相談マップは実際紹介や活用までに至っていないように思う。
HIV陽性者への支援体制の整備について、管内のエイズ拠点病院と連携し進めていく必要がある。
MSMの方に焦点を置いたアプローチ(検査や情報のアナウンス)方法を模索しています。
この時期に1年分の検査数などを集計するのは大変です。せめて期限を長めにするか、アンケートの時期をご検討ください。
これまで日本語の判らない外国籍の人の来所はない。英語版問診票の準備はあるものの実際に来所された場合の対応は大変難しいと思う。
メンタル問題が主のリピーター対応。陰性と分かると安心して感染対策等について説明しても本人はもう聞く耳をもたない。
医療機関受診後や治療中に「初めて」と受検する人がいる。
一緒に実施しているB,C型肝炎、梅毒検査の英語の説明用パンフレットがなく、同時受検を勧めにくい。
外国語対応、未成年者への対応
外国語対応がパンフレット等を介してしかできない。

保健所における HIV 検査体制に関する調査(R1年)

結果を聞きに来ない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や予防行動につなげられない可能性がある。
検査は匿名で実施しており、結果は受検者から連絡を受け伝えているため、不告知(結果を伝えられないケースがある)
研修する機会を増やしてほしい
受検者減少傾向
相談対応者専用のウェブサイトや対応者が相談できる窓口があるとよい。
当保健所は医師(所長)が2つの保健所を兼務しているため、検査希望者が実施可能な検査日が限定されている。(予約制で対応)
匿名で受検し、結果通知を受け取りに来ないものへの対応。結果通知の保管期間。
匿名検査のため予約したが当日受検しなかった方に働きかけができず、予約のキャンセル待ちをしていた方も受検に至れないことがある。また、結果説明のための再来所をされない方にも働きかけができない。
頻回受検者への対応策
保健所の統廃合により利便性が悪くなっており、郵送による検査を導入してほしい。
保健所より説明するための統一様式がほしい

④ 事例集に掲載してほしい内容、貴施設での検査・相談に工夫されていることはありますか？

事例集に掲載してほしい内容、貴施設での検査・相談に工夫されていること
予防行動をとらずに定期的に受検を繰り返す方への効果的なカウンセリング
・匿名での検査受付、会場案内看板への疫病名の不記載など受検者の心情に配慮している。 ・また検査の予約をインターネットで受け付けるなど、利便性の向上を図っている。
「検査・相談にあたり工夫していること」 ・参考資料として、検査の流れ・ウィンドウ期について・発生状況のデータ・感染経路などをファイルにまとめており、相談や結果説明の際必要であれば、受検者と一緒に見ながら説明を行っている。 ・終了後にアンケートの記入をお願いしており、事業改善の参考にしている。 ・プライバシー保護のため、相談や結果説明や個室で行う。結果待ちの間、会場で待たれる場合は一人ひとり区切られたパーテーション内で待機してもらう。会場に出受検者同士が顔を併せないように、受検者が移動する際はスタッフが誘導する。
・プライバシーの保護における工夫(部屋の構造に関係なくできること) ・陰性者への結果説明や今後の予防行動の確認のために活用している媒体物(既存のリーフレットは除く)面接方法。
当所では中学生、高校生が来所されたことがなく、対応マニュアルもないため、検討中です。事例などありましたら掲載してほしいと思います。

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

2. HIV検査実績について

2019年1～12月の実施状況をお教え下さい。

(n=15)

① HIV検査件数

検査数	28,863
うち陽性数	123
陽性率	0.43%

アンケート送付数	18
回収数	15
回収率	83.3%

陽性経験数

陽性者があった施設	11件	73.3%
陽性がなかった施設	4件	26.7%

年間検査件数別施設数

年間検査数	施設数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
全体	15		28863		123	0.43%	73.3%	11
50件未満	0		-		-	-	-	-
50-99件	1	6.7%	80	0.3%	0			0
100-199件	2	13.3%	247	0.9%	0			0
200-499件	1	6.7%	453	1.6%	0			0
500-999件	5	33.3%	3,531	12.2%	14	0.40%	100.0%	5
1000件以上	6	40.0%	24,552	85.1%	109	0.44%	100.0%	6

② HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数と%

	陰性で聞きに来なかった人		陽性で聞きに来なかった		検査件数	陽性数	陰性数	聞きに来ない
全体	491	1.7%	9	7.3%	28,863	123	28,740	500
即日検査のみ	2	0.0%	2	10.5%	7,179	19	7,160	4
即日検査+通常検査	32	0.6%	3	9.7%	5,397	31	5,366	35
通常検査のみ	457	2.8%	4	5.5%	16,287	73	16,214	461

③ 発生届出を行った陽性者数 87人 (70.7%)

④ 陽性者のうち、医療機関への紹介状を発行した数 107人 (87.0%)

④ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数: 90人 (78.9%)

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

3. HIV検査・相談事業について

① HIV検査の際にHIV以外の性感染症検査を一緒に行っていますか？ (n=15)

行っている	10件	66.7%
行っていない	5件	33.3%

「行っている」と答えた施設 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください。

梅毒	10	100.0%	(n=10) 複数回答
クラミジア抗原または抗体	1	10.0%	
淋菌	1	10.0%	
B型肝炎	3	30.0%	
C型肝炎	0	0.0%	

② HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
2019年1月以降HIV/性感染症検査に関して誤った結果を通知したことはありましたか？ (n=15)

なかった	15	100.0%
あった	0	0.0%
⇒HIVについてあった	-	-
⇒STIについてあった	-	-

③ HIV検査成績の証明書を発行していますか？ (n=15)

発行していない	14	93.3%	
発行している	1	6.7%	
→料金は？			
無料	1	100.0%	(n=1)
有料	0	0.0%	
記名式ですか？			
→はい	0	0.0%	
→いいえ	1	100.0%	

④ HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？(複数回答) (n=15)

ない	2	13.3%
ある	13	86.7%
→紹介状の返信、 医療機関からの報告	11	84.6%
→同伴受診	1	7.7%

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

4. 受検者に関する情報収集・対応状況等について

① 受検者について把握している内容に○を付けて下さい 複数回答あり

性別	14	93.3%
年齢	11	73.3%
年代	6	40.0%
居住地域	11	73.3%
受検動機	12	80.0%
受検経験	13	86.7%
感染リスク	13	86.7%
性的指向	13	86.7%
感染機会の時期	14	93.3%
今回の検査の情報源	11	73.3%
その他	4	26.7%

(n=15)

② 受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？

(n=15)

用いていない	0	0.0%
用いている	15	100.0%

③ 職務中の血液暴露事故が受検動機の受検者はいましたか？

(n=15)

わからない、把握していない	6	40.0%
いない	4	26.7%
いる	5	33.3%
→職種	人数	
医療職	41人	100%

④ 中学生・高校生の検査希望者への対応はどのようにしていますか

(n=15)

通常通り行う	12	80.0%
受け付けない	1	6.7%
検査・告知とも保護者同伴で受付	1	6.7%
告知のみ保護者同伴で受付	0	-
保護者の同意を得られているか	0	-
保護者同伴	0	-
陽性時(緊急時)は保護者に説明	0	-
中学生は保護者同伴か受け付けない	1	6.7%
状況に応じて	3	20.0%

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

⑤ 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？

ない	9	60.0%	(n=15)
ある	6	40.0%	
◆言語			(n=6)
→英語	5	83.3%	
→中国語	1	16.7%	
→韓国語、朝鮮語	0	0.0%	
→ポルトガル語	1	16.7%	
→スペイン語	1	16.7%	
→ベトナム語	1	16.7%	
→タイ語	1	16.7%	
→タガログ語、フィリピン語	1	16.7%	
→ロシア語	0	0.0%	
◆方法			
問診票、説明書	3	50.0%	
通訳依頼	1	16.7%	
通訳システム、アプリ	1	16.7%	
外国語対応できる人	3	50.0%	
英語、日本語と不可なら受検不可	1	16.7%	
日本語不可なら受検不可	1	16.7%	

5. HIV検査の実施状況について教えて下さい(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)。

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい (n=15)

1	通常検査のみ	4	26.7%
2	即日検査のみ	10	66.7%
3	通常+即日	1	6.7%

通常検査を行っている施設 5
即日検査を行っている施設 11

A	平日昼のみ検査	0	0.0%
B	平日夜間検査	3	20.0%
C	土日検査(祝日含む)	12	80.0%

1A	通常のみ+平日昼のみ	0	-
1B	通常のみ+夜間も行っている	1	6.7%
1C	通常+土日検査も	3	20.0%
2A	即日のみ+平日昼のみ	0	-
2B	即日のみ+夜間も行っている	2	13.3%
2C	即日+土日検査も	8	53.3%
3A	通常+即日・平日昼のみ	0	-
3B	通常+即日・夜間も行っている	0	-
3C	通常+即日・土日検査も	1	6.7%

15

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

A 通常検査の場合

15施設

① 実施方法は？ (n=6) 複数回答

定期	5	83.3%
イベント	0	0.0%

② 曜日と時間は？ (n=6) 複数回答

曜日		
土、日、祝日	4	66.7%
平日	2	33.3%
時間帯		
午前	0	-
午後	4	66.7%
夜間	4	66.7%
月回数		
4	3	50.0%
8回以上	2	33.3%
年回数		
1~2回	0	-
4回以上	0	-

③ 予約制ですか？ (n=6) 複数回答

はい	3	50.0%
いいえ	3	50.0%

④ 結果返しは？ (n=5)

6日以内	0	0.0%
1週間後	5	100.0%
1~2週間	0	0.0%

⑤ スクリーニング検査 実施施設は？ (n=5)

自施設	0	0.0%
他施設	5	100.0%

⑥ 確認検査の方法は？ (n=5)

WB法のみ	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	1	20.0%
WB法+NAT法	2	40.0%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	2	40.0%
その他	2	40.0%

NAT法はWB法で(-)の時に実施
2次スクリーニング検査まで

⑦ 確認検査の実施施設は？ (n=5)

自施設	1	20.0%
他施設	4	80.0%

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

B 即日検査の場合

355保健所

① 実施方法は？ 複数回答 (n=12)

定期	11	91.7%
イベント	1	8.3%

② 曜日と時間は？ 複数回答

曜日		
土、日、祝日	10	83.3%
平日	2	16.7%
時間帯		
午前	1	8.3%
午後	9	75.0%
夜間	3	25.0%
月回数		
1回	4	33.3%
2回	2	16.7%
3~4回	3	25.0%
8回以上	1	8.3%
年回数		
4回以上	2	16.7%

③ 予約制ですか？ (n=12) 複数回答

はい	9	75.0%
いいえ	3	25.0%

④ 結果返しは？ (n=11)

6日以内	0	0.0%
1週間後	6	54.5%
1~2週間	3	27.3%
2週間以降	0	0.0%

⑤ スクリーニング検査の方法は？ (n=11) 複数回答

イムノクロマト法	2	18.2%
ダイナスクリーン	7	63.6%
エスプライン	1	9.1%
未記入	1	9.1%

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

⑥ スクリーニング検査 実施施設は？ (n=11)

自施設	9	81.8%
他施設	2	18.2%

⑦ 確認検査の方法は？ (n=11)

WB法のみ	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	3	27.3%
WB法+NAT法	4	36.4%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	3	27.3%
その他	2	18.2%

⑧ 確認検査の実施施設は？

自施設	2	16.7%
他施設	9	75.0%

⑨ 確認検査用 検体は？ (n=12) 複数回答

迅速検査残血液	4	33.3%
確認検査用再採血	5	41.7%
迅速検査用と同時	1	8.3%
結果通知後	4	33.3%

6. 結果説明・相談体制について

複数回答 (n=15)

		スクリーニング検査陰性時		スクリーニング検査陽性時		確認検査陰性時		確認検査陽性時	
職種	医師	14	93.3%	12	80.0%	12	80.0%	13	86.7%
	保健師	4	26.7%	3	20.0%	2	13.3%	3	20.0%
	看護師	3	20.0%	3	20.0%	2	13.3%	2	13.3%
	検査技師	1	6.7%	1	6.7%	2	13.3%	1	6.7%
	その他(カウンセラー等)	2	13.3%	3	20.0%	2	13.3%	2	13.3%
説明資料	あり	14	93.3%	11	73.3%	11	73.3%	11	73.3%
	なし	1	6.7%	1	6.7%	1	6.7%	2	13.3%
配布資料	あり	15	100.0%	12	80.0%	11	73.3%	13	86.7%
	なし	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%

④ 検査結果の説明方法について

複数回答 (n=15)

		スクリーニング検査陰性時		スクリーニング検査陽性時		確認検査陰性時		確認検査陽性時	
	口頭のみ	5	33.3%	3	20.0%	3	20.0%	3	20.0%
	結果の書面を渡す	10	66.7%	9	60.0%	9	60.0%	10	66.7%
	希望者には結果書を渡す						0.0%	0	0.0%
	この状況での対応なし			2	13.3%				

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

- ⑥ 確認検査陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=15) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=11)	
経験あり	6	40.0%	4	36.4%
実績はないが可能	3	20.0%	2	18.2%
できない	2	13.3%	2	18.2%
検討中		0.0%	0	0.0%
その他	2	13.3%	2	18.2%

- ⑦ 確認検査で陽性の場合、貴施設で発生届を提出していますか？ (n=15) 複数回答あり

	全体		陽性経験保健所(n=11)	
行う	6	40.0%	5	45.5%
行わない	1	6.7%	0	0.0%
医療機関に依頼する	6	40.0%	5	45.5%

7. 検査・実施体制と担当者の研修機会について

- ① 検査以外に感染予防等に関する相談を実施していますか？ (n=15)

していない	1	6.7%
している	14	93.3%

対象者は？

(n=14)

→全員に	13	92.9%
→陽性者のみ	0	0.0%
→陰性者のみ	1	7.1%

タイミングは？

複数回答あり

検査前に	0	0.0%
結果説明後に	6	42.9%
両方に	8	57.1%

具体的手法は？

複数回答あり

資料配布	7	50.0%
医師対応	11	78.6%
保健師対応	4	28.6%
カウンセラー対応	3	21.4%
NGOと連携	2	14.3%
随時電話相談	1	7.1%

- ③ 検査・相談に関わる担当者の研修や再教育の機会がありますか？ (n=15)

ある	11	73.3%
自施設内での研修	5	33.3%
自治体主催の研修	6	40.0%
国立保健医療科学院主催の研修	2	13.3%
エイズ予防財団主催の研修	7	46.7%
拠点病院、医師会主催の研修	3	20.0%
ない	3	20.0%

自治体特設 HIV検査施設におけるHIV 検査体制に関する調査(R1年)

8. 検査・相談の受け入れについて

やむを得ず検査・相談の受け入れを断ったことはありますか？ (n=15)

ある	10	66.7%
→定員数を超過した	6	60.0%
→外国人対応が困難	2	20.0%
→受付時間に間に合わなかった	3	30.0%
→1週間後の結果が受け取れない	1	10.0%
→すでに他で陽性結果が出ていた	1	10.0%
ない	5	33.3%

(n=10)

9. その他

①ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

ある	15	100.0%
ない	0	0.0%

(n=15)

②「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

はい	15	100.0%
いいえ	0	0.0%

(n=15)

③ HIV検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありますか？

課題
・スタッフの確保・予算不足
・スタッフ側の語学力不足や受検者の日本語レベルが不明のため、資材での対応には限界がある。予防啓発できない。また日本語ができない人の受検は不可だが来てしまったらお断りがむずかしい。直近では母国語優先、日本語が稚拙で英語不可、というケースがあり質疑応答ができない。

④ 事例集に掲載してほしい内容、貴施設での検査・相談に工夫されていることはありますか？

事例集に掲載してほしい内容、貴施設での検査・相談に工夫されていること
<ul style="list-style-type: none"> ・公式HPを利用できる。https://www.circle-sapporo.com/ ・電話での予約(平日10:00-17:00対応)のみならず、公式HPよりWeb予約(24時間365日対応)ができる工夫をしている。https://www.circle-sapporo.com/appo.html ・公式HPには英語サイトも併設し、通訳派遣(英語のみ)もできる。https://www.circle-sapporo.com/index-en.html ・陽性告知時に渡す紹介状に「受診確認票」を同封し、受検者が病院に受信したことを確認できるよう工夫している。 ・相談の内容の具体例を示した「相談案内」を、受検者に案内することで、相談することのハードルを下げる工夫をしている。

ブロック	保健所数	検査件数	陽性数	陽性率
北海道	38	2,336	5	0.21%
東北	46	4,766	6	0.13%
関東甲信越	129	33,028	68	0.21%
北陸	21	2,004	2	0.10%
東海	47	14,066	35	0.25%
近畿	71	21,532	54	0.25%
中国/四国	61	6,922	15	0.22%
九州	75	12,170	35	0.29%
総計	488	96,824	220	0.23%

【検査種別での分類-保健所数】

行ラベル	通常検査のみ	即日検査のみ	通常+即日	総計
北海道	9	27	2	38
東北	9	26	11	46
関東甲信越	40	52	37	129
北陸	9	2	10	21
東海	25	15	7	47
近畿	24	27	20	71
中国/四国	8	39	14	61
九州	9	49	17	75
総計	133	237	118	488

【検査件数での分類-保健所数】

ブロック	50件未満	50-99件	100-199件	200-499件	500-999件	1000件以上	総計
北海道	24	8	4	1	1		38
東北	23	11	5	6		1	46
関東甲信越	29	21	27	32	14	6	129
北陸	10	5	3	3			21
東海	10	11	10	5	9	2	47
近畿	19	14	18	14	1	5	71
中国/四国	26	9	16	8	2		61
九州	39	11	9	9	4	3	75
総計	180	90	92	78	31	17	488

【検査件数での分類-検査件数】

ブロック	50件未満	50-99件	100-199件	200-499件	500-999件	1000件以上	総計
北海道	386	583	466	200	701		2,336
東北	466	793	624	1,685		1,198	4,766
関東甲信越	771	1,541	3,843	9,269	9,495	8,109	33,028
北陸	216	365	456	967			2,004
東海	286	797	1,362	1,742	6,096	3,783	14,066
近畿	502	1,012	2,636	4,326	566	12,490	21,532
中国/四国	454	582	2,152	2,675	1,059		6,922
九州	797	829	1,355	2,998	2,649	3,542	12,170
総計	3,878	6,502	12,894	23,862	20,566	29,122	96,824

【検査件数での分類-陽性数】

ブロック	50件未満	50-99件	100-199件	200-499件	500-999件	1000件以上	総計
北海道	0	3	0	1	1		5
東北	0	2	1	1		2	6
関東甲信越	0	2	8	17	18	23	68
北陸	0	0	0	2			2
東海	0	1	0	3	12	19	35
近畿	1	1	2	12	1	37	54
中国/四国	1	0	5	7	2		15
九州	2	0	3	7	12	11	35
総計	4	9	19	50	46	92	220

【検査件数での分類-陽性率】

ブロック	50件未満	50-99件	100-199件	200-499件	500-999件	1000件以上	総計
北海道	0.00%	0.51%	0.00%	0.50%	0.14%	—	0.21%
東北	0.00%	0.25%	0.16%	0.06%	—	0.17%	0.13%
関東甲信越	0.00%	0.13%	0.21%	0.18%	0.19%	0.28%	0.21%
北陸	0.00%	0.00%	0.00%	0.21%	—	—	0.10%
東海	0.00%	0.13%	0.00%	0.17%	0.20%	0.50%	0.25%
近畿	0.20%	0.10%	0.08%	0.28%	0.18%	0.30%	0.25%
中国/四国	0.22%	0.00%	0.23%	0.26%	—	—	0.22%
九州	0.25%	0.00%	0.22%	0.23%	0.45%	0.31%	0.29%
総計	0.10%	0.14%	0.15%	0.21%	0.22%	0.32%	0.23%

【梅毒実施件数、検査数・陽性数】

ブロック	梅毒検査 実施している	(3)検査数	(3)陽性数	うちSTS検査 数	うちSTS陽性 数	(3)うちTP検 査数	(3)うちTP陽 性数
北海道	37	1,658	42	1,157	21	1,460	34
東北	46	4,366	78	2,658	37	3,564	63
関東甲信越	127	28,280	578	21,541	293	26,514	595
北陸	13	790	12	733	11	733	11
東海	47	9,763	300	8,997	163	9,191	341
近畿	71	19,630	281	13,757	182	15,992	535
中国/四国	52	4,785	86	2,884	39	4,157	81
九州	62	9,875	260	9,163	130	9,097	293
総計	455	79,147	1,637	60,890	876	70,708	1,953

【梅毒陽性率】

ブロック	陽性率（全 体）	STS陽性率	TP検査陽性率
北海道	2.53%	1.82%	2.33%
東北	1.79%	1.39%	1.77%
関東甲信越	2.04%	1.36%	2.24%
北陸	1.52%	1.50%	1.50%
東海	3.07%	1.81%	3.71%
近畿	1.43%	1.32%	3.35%
中国/四国	1.80%	1.35%	1.95%
九州	2.63%	1.42%	3.22%
総計	2.07%	1.44%	2.76%

保健所における梅毒検査体制に関する調査(R1年)

1. 貴保健所では梅毒検査を実施していますか？

(n=488)

アンケート送付数

実施している	455件	93.2%
実施していない	32件	6.6%
実施の予定	件	0.0%

回収数	557
HIV検査実施	488
回収率	87.6%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ

(n=455)

(1) 検査体制に関するご質問

① 梅毒検査について、検査費用の自己負担はありますか？ (n=455)

ある(有料)	51	11.2%
金額→500円以下	9	17.6%
500～1000円未満	24	47.1%
1,000円～2,000円未満	16	31.4%
ない(無料)	418	91.9%
条件により有料	16	3.5%

(n=51)

② 梅毒検査単独でも検査を受けることができますか。

(n=455)

梅毒検査単独でも受けられる	301	66.2%
HIV検査と一緒にする場合のみ受けられる	157	34.5%

③ 梅毒検査に関する説明・相談に、何らかの資料を使用していますか。

(n=455)

使用していない	55	12.1%
→必要ない	8	(14.5%)
→適当な資料がない	36	(65.5%)
使用している	399	87.7%
→自施設で作成した資料	147	(36.8%)
→HIV検査・相談マップ(もしかして梅毒!?)	62	(15.5%)
→感染症学会資料(STOP梅毒)	22	(5.5%)
→県・市作成資料	69	(17.3%)
→市販パンフレット等	125	(31.3%)

(n=55)

(n=399)

保健所における梅毒検査体制に関する調査(R1年)

- ④ 梅毒検査の実施状況について、教えてください。
 (通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)

(n=455)

通常検査のみで実施	281	61.8%
即日検査のみで実施	130	28.6%
両方実施	44	9.7%

通常検査を行っている	325
即日検査を行っている	174

■検査方法	通常検査 (325件)		即日検査 (174件)		複数回答
① STS法のみ	5	1.5%	13	7.5%	
② STS法とTP抗体検査を同時実施	261	80.3%	85	48.9%	
③ STS法で陽性の場合、TP抗体検査を追加実施	15	4.6%	8	4.6%	
④ TP抗体検査で陽性の場合、STS法を追加実施	4	1.2%	3	1.7%	
⑤ TP抗体検査で陽性の場合、STS法・TP抗体検査を追加実施	13	4.0%	8	4.6%	
TP抗体検査のみ	19	5.8%	45	25.9%	
⑥ その他	5	1.5%	17	9.8%	
■結果返却のタイミング					
6日以内	11	3.4%	116	66.7%	
1週間後	189	58.2%	5	2.9%	
1週から2週まで	19	5.8%	5	2.9%	
2週間後	97	29.8%			

検査方法について教えてください。

	通常検査 (325件)		即日検査 (174件)		複数回答
■ STS法	274		112		
→RPRカードテスト	230	83.9%	111	40.5%	
→自動化法	40	14.6%	0	0.0%	
→その他	0	0.0%	0	0.0%	
→不明	6	2.2%	0	0.0%	
■ TP抗体検査	303		161		
→TPHA法	161	53.1%	38	12.5%	
→TPPA法	14	4.6%	1	0.3%	
→TPLA法	57	18.8%	5	1.7%	
→TPIC法	56	18.5%	101	33.3%	
→FTA-ABS法	16	5.3%	2	0.7%	
→その他	9	3.0%	1	0.3%	
→不明	2	0.7%	8	2.6%	

保健所における梅毒検査体制に関する調査(R1年)

(2) 検査実績に関するご質問

① 1年間(2019年1-12月)の梅毒検査数・陽性数を教えてください。 (n=455)

検査数		陽性数		陽性率
梅毒検査数	79,147	梅毒陽性数	1,637	2.1%
うちSTS法検査数	60,890	うち STS法陽性数	876	1.4%
TP抗体検査検査数	70,708	TP抗体検査陽性数	1,953	2.8%

② 梅毒検査が陽性だった場合の対応について、当てはまるもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

結果告知のみ	61	13.4%
受診勧奨	412	90.5%
パートナーの検査勧奨	280	61.5%
医療機関紹介	252	55.4%
紹介状を発行	306	67.3%
その他	20	4.4%

③ 梅毒検査陰性の証明書を発行していますか。 (n=455)

発行していない	328	72.1%	
発行している	121	26.6%	(n=328)
→料金は？			(n=121)
無料	52	(43.0%)	
有料	64	(52.9%)	
金額→ 500円未満	8	(6.6%)	
500～1,000円未満	25	(20.7%)	
1,000円～2,000円未満	23	(19.0%)	
2,000円以上	8	(6.6%)	
記名式ですか？			
→はい	80	66.1%	
→いいえ	31	25.6%	

④ HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？(複数回答)

ない	302	66.4%	(n=455)
ある	145	31.9%	
医療機関からの報告	131	90.3%	(n=145)
→受診医療機関に確認	3	2.1%	
→同伴受診	1	0.7%	
→本人の連絡先を把握	2	1.4%	

保健所における梅毒検査体制に関する調査(R1年)

3. 問題点、課題等

課題
検査案内、検査説明、健康指導のための英語のパンフレットがないため、日本語を話せない住民への説明が不十分になっていること。
道立保健所における梅毒検査がH31年から開始となり、住民へ広く周知していくことが今後の課題。HIV等他性感染症受検申込時に梅毒検査の同時実施を推奨している。
紹介状作成後、発行対象者がいなかったためうまく機能するか不明。また受診しなかったとしても匿名検査のため再勧奨は困難。
当保健所でのH29.1-H31.12月までの間の梅毒陽性者はなかった。陽性者が判明した場合は面接にて告知し受診勧奨することとしている。検査を受けたが結果説明のために来所しない者については追跡できない。受診勧奨後受療したかについては本人の同意を得て確認していくことになる。
検査は匿名(仮名)で実施し、連絡先を把握していないため、利用者が保健所へ来所または連絡をしてこなければ結果の告知ができないため、結果を伝えられないことがある。
匿名検査が主体であるため、何度も検査を受けようとするものがあること。
過去の治療歴のある方への結果の伝え方や受診勧奨の説明が難しい。(結果の読み取り方、今後の治療の見直し等が説明しづらい)
匿名検査のため予約したが当日受検しなかった方に働きかけができず、予約のキャンセル待ちをしていた方も受検に至れないことがある。また、結果説明のための再来所をされない方にも働きかけができない。
既感染者の把握と検査実施について
梅毒のみ陽性時は本人が自分で受診すると返答した場合、紹介状発行しないこともあり。そうすると確実に受診したかの確認がとれない。
RPRカードテストを即日検査で実施するには水平回転器など初期費用がかかる。
管内で若年層の梅毒陽性者が増加している。若年層に向けた性感染症予防のための情報、検査相談についての情報の周知徹底が必要。
陽性者の受診確認。
・医療機関受診後、結果が待ちきれず受けに来る人がいる。(結果告知の時は治療中に) ・既往があるのに「ない」と言って受ける人がいる。
現在STS法で陽性の際にTPHA法を実施している。より適格な検査を行うためには同時での実施が課題である。
外国語対応、未成年者への対応
受検者数の減少
医療機関での治療中、あるいは治療後の確認のため受検する。(医療機関で治療確認をしていないところがある)
・頻回受検者の対応。 ・梅毒の既往があったり治療終了の確認目的の受検者の対応。
外国語の対応がパンフレット等を介してしか説明できない。
匿名性を重視しており、陽性と判定された場合に紹介状作成のため名前を聞いてもよいか悩む。
担当者の研修・教育の機会がない。
初期段階での判定が難しい(RPR値0.8~1の判定)

保健所における梅毒検査体制に関する調査(R1年)

<ul style="list-style-type: none">・治療後の方が確認のために受検に来ることがある。・確認できないこと、既感染の場合は治療の必要性の判断も含め必ず受診するよう指導を行っている。
陽性者が医療機関を受診したかを知る仕組みがなく、検査結果が治療に結びついているかわからない。
結果を聞きに来ない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や予防行動につなげられない可能性がある。
結果については本人が当センターへTELLし、問い合わせる形で伝えているが、問い合わせがない(結果通知ができていない)者が1~2割存在。
検査結果は後日本人からの電話で回答しているため、連絡がない場合は結果を伝えることができない。
検査結果は後日本人からの電話で回答しているため、匿名検査であり連絡がない場合は結果を伝えることができない。
検査結果は後日本人からの電話で回答しているため、匿名検査であり連絡がない場合は結果を伝えることができない。
<ul style="list-style-type: none">・梅毒検査陽性者の居住地が遠方で管轄外の場合、医療機関を受診したか確認できない。・結果を郵送希望の場合、面接して詳細を聞くことができず発生届も書けず他力本願になる。
陽性者が医療機関を受診したかどうかについて、学生や未成年者が陽性だった場合どう対応するか。
<ul style="list-style-type: none">・結果の解釈が難しいので、説明も難しい。・治療についても病期によって異なるようなので相談対応に不安がある。・相談対応マニュアルがあれば助かります。
<ul style="list-style-type: none">・HIV検査のついでに無料で受けられるから等の理由で受検する人が多く、梅毒が陽性になっても病気や治療についての理解が得られにくい。・受診勧奨後本人の受診の有無が確認できない。
匿名検査のため、検査結果は本人からの問い合わせ(照会)で伝えており、陽性と判明している受検者のうち、本人から連絡がない場合陽性者に結果を通知できていないことがある。(2019年1月~12月は陽性9件中2件には陽性結果をつたえられていない)

自治体特設HIV検査施設における梅毒検査体制に関する調査(令和元年)

1. 貴施設では梅毒検査を実施していますか？

(n=14)

アンケート送付数

実施している	9件	64.3%
実施していない	5件	35.7%

回収数	14
HIV検査実施	15
回収率	77.8%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ

(n=9)

送付数+送付していないが
回収された保健所数
18

(1) 検査体制に関するご質問

① 梅毒検査について、検査費用の自己負担はありますか。 (n=9)

ある(有料)	0	0.0%
ない(無料)	8	88.9%
未回答	1	11.1%

② 梅毒検査単独でも検査を受けることができますか。 (n=9)

梅毒検査単独でも受けられる	2	22.2%
HIV検査と一緒にのみ受けられる	7	77.8%

③ 梅毒検査に関する説明・相談に、何らかの資料を使用していますか。 (n=9)

使用していない	1	11.1%	(n=1)
→必要ない	0	(0.0%)	
→適当な資料がない	1	(100.0%)	
使用している	8	88.9%	(n=8)
→自施設で作成した資料	4	(50.0%)	
→HIV検査・相談マップ(もしかして梅毒!?)	2	(25.0%)	
→感染症学会資料(STOP梅毒)	0	(0.0%)	
→県・市作成資料	2	(25.0%)	
→市販パンフレット等	2	(25.0%)	

④ 梅毒検査の実施状況について、教えてください。
(通常・即日共に実施している場合は両方の質問にご回答ください)

(n=9)

通常検査のみで実施	3	33.3%
即日検査のみで実施	5	55.6%
両方実施	1	11.1%

通常検査を行っている	4
即日検査を行っている	6

■検査方法	通常検査 (4件)	即日検査 (6件)	複数回答
① STS法のみ	0	0	0.0%
② STS法とTP抗体検査を同時実施	2	1	50.0% / 16.7%
③ STS法で陽性の場合、TP抗体検査を追加実施	0		0.0%
④ TP抗体検査で陽性の場合、STS法を追加実施	1		25.0% / 0.0%
⑤ TP抗体検査で陽性の場合、STS法・TP抗体検査を追加実施	1		25.0% / 0.0%
TP抗体検査のみ		3	0.0% / 50.0%
未記入		2	0.0% / 33.3%
■結果返却のタイミング			
6日以内	0		0.0%
1週間後	3		75.0% / 0.0%
1週から2週まで	1		25.0% / 0.0%
2週間後			0.0%

検査方法について教えてください。

	通常検査 (4件)	即日検査 (6件)	複数回答
■ STS法	4	2	
→RPRカードテスト	3	2	75.0% / 50.0%
→自動化法	1		25.0%
→その他			0.0%
→不明			0.0%
■ TP抗体検査	4	6	
→TPHA法	1	2	25.0% / 50.0%
→TPPA法	1		25.0%
→TPLA法	1		25.0%
→TPIC法		3	75.0%
→FTA-ABS法			

自治体特設HIV検査施設における梅毒検査体制に関する調査(令和元年)

(2)検査実績に関するご質問

① 1年間(2019年1-12月)の梅毒検査数・陽性数を教えてください。

(n=9)

検査数		陽性数		陽性率
梅毒検査数	23,728	梅毒陽性数	732	3.1%
うちSTS法検査数	6,019	うち STS法陽性数	133	2.2%
TP抗体検査検査数	23,169	TP抗体検査陽性数	813	3.5%

② 梅毒検査が陽性だった場合の対応について、当てはまるもの全てに○を付けてください。(複数回答可)

結果告知のみ	1	11.1%
受診勧奨	8	88.9%
パートナーの検査勧奨	6	66.7%
医療機関紹介	3	33.3%
紹介状を発行	6	66.7%

③梅毒検査陰性の証明書を発行していますか。

(n=9)

発行していない	7	77.8%
発行している	2	22.2%
→料金は？		
無料	2	(100.0%)
有料	0	(0.0%)
記名式ですか？		
→はい	0	0.0%
→いいえ	1	50.0%

(n=7)

(n=2)

④HIV検査の陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？(複数回答)

ない	6	66.7%
ある	3	33.3%
紹介状の返信	2	66.7%
未記入	1	33.3%

(n=9)

(n=3)

3. 問題点、課題等

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・HIVに感染していて治療中の方が梅毒検査目的で利用されるケースがある。 ・HIVの主治医のところで検査を受けるよう促すべきか。
<p>即日検査ではTP抗体検査のみでRPRがわからない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・HIV検査と比較して資材不足。特に多言語では対応できず英八羽毛説明程度なので予防啓発できない。 ・治療歴ありの判定がつくと受検者が自覚している/していないで大きく説明に差が出る。また治療直後の人や定性と定量検査の違いなどを知らない人も多く来るため、治療先などで今後の検査の受け方など説明していただけるとよいと思う。